



## TV取材で話しても、必ずカットされてしまう話

慈久庵 小川 宣夫様

### 紹介者

### 傳 健興会員

粗挽き粉で打つ蕎麦では日本一の慈久庵の当主です。小川さんは荻窪の本むら庵で修行された後、南阿佐ヶ谷で石臼引き自家製粉の手打ち蕎麦「慈久庵」を開店。「もっとおいしい蕎麦」の追求と、「荒れていく村の里山をなんとか再生したい」という思いから、生まれ故郷の常陸太田市で、古来の在来農法、焼き畑蕎麦栽培に取り組んでいます。また、地元水府産の小麦を生かした手打ち饅頭店も開店しました。また、昔、焼き討ちに遭い仁王不在であった、水府村の東金砂神社に関頑亭氏の仁王像二体を寄進。同神社にお一人で5,100株の紫陽花を植え、「願掛け紫陽花」を開催。目標は紫陽花1万本です。

最近、当店のテレビ取材が多くなりました。しかし、私が話した結論はだいたいカットされます。取材の内容は二通りあり、一つは技術を教わりたいこと。しかし、私が、「技術は関係ない。美味しくするプログラムの中のひとつが技術であり、美味しいものを作ろうという気持ちが大切です。」と説明するのですが、そこはカットされてしまいます。

あと一つは行列です。「こんな山の中に行列ができるお店」が、取材側の狙いです。今は行列がトレンドになっていて、行列でないお店は見向きもされません。行列のできるお店の要因は、日本初上陸、インスタ映え、激安、激辛などですが、当店には行列の要素は全くありません。愛想が悪い、値段が高い、待たせる、不便な所にあるなど。「私の店が行列になるのは、『せいろそば』の向こう側にあるものをお客様が見て、お店に来てくれる。」と説明するのですが、それもカットされます。担当のディレクターが理解できないもの、視聴者が理解できないであろうとTV局側が付度したものはカットされるようです。

私は、大学卒業後は、仕事をしながら人に頼らない道を模索していました。そして、29歳頃、長野県に山荘を作って移住しました。しかし、目的があった訳ではありませんが、何かが見つかりそうな気がしたのです。長野で見た畑は私が子供の頃に見た畑とは全く異なり、近代化されていました。その時に生まれ故郷の蕎麦畑を守りたいと目覚め、日本一の蕎麦屋を目指しました。その後、9年間修行を重ね、42歳で阿佐ヶ谷に慈久庵を開店しました。

現在、手刈り天日乾燥の蕎麦農家で一番若い人は80歳、最も高齢の人で90歳を超え、私も72歳です。もうそろそろこの仕事も終わりでしょう。高い値段で買い取っていますので、農家の方も頑張ってくれています。彼らが蕎麦畑を続ける限り、私も蕎麦屋を続けようと思っています。

蕎麦屋を始めるきっかけは、蕎麦が好きだったり、実家の蕎麦屋の継承だったりしますが、私の場合はイデオロギーによるものです。生まれ育った故郷の蕎麦畑を守るために、蕎麦屋をやリ、そして、日本一の蕎麦屋になるための技術を身につけました。イデオロギーがあることが、他の蕎麦屋さんとは違う点だと思います。

本むら庵で一緒に修行した友人と十数年ぶりに再会しました。その友人は自家製粉はやめて、製麺屋の麺を使っています。その方が利益があると話していました。それも一つの方法ですが、私が20年前に蕎麦畑を始めた時は、自分だけではもったいないので、東京の若い蕎麦屋さんや修行中の人に呼びかけ、一緒に畑作りをしました。修行中だった人は、その後開店し、マスコミにも取り上げられ、良い蕎麦屋になっています。このような現実をみますと、技術ありきではなく、理想とする蕎麦作りのための技術が必要なので、どんな蕎麦が作りたいたかが大事です。

「お店に並ぶ」ことに関しては、私の立場からすると、すごく美味しいお蕎麦に感動して、心震わせたお客様がいたために起こった現象としたいのですが、並ぶというのはプロセスを知っているようです。

昔はお店に行く前に、ガイドブックを読んで、そのお店やシェフの考え方や料理の特徴などを予習してから行きました。頭で理解して、味わって確かめ、そうすることによって初めて美味しさが分かります。今はスマホの時代で、お店の情報を検索するので、美味しいという思い込みで来店します。また、慈久庵の当主は焼き畑蕎麦栽培をやっているというようにお店の背景も分かります。

自分の思いを直接訴えるのではなく、文字で可視化しなければ伝わらない。逆に言えば、文字で可視化すれば伝わる時代です。

私が仁王像を寄進しました東金砂神社に紫陽花を植え、「願掛け紫陽花」を開催しています。ただの紫陽花祭りではなく、願い事を込めて紫陽花を植え、見る人も願掛けをします。私の願掛けは、寄進した東金砂神社の仁王像の胎内に願文を入れてあります。

「慈久万物 人世慈久 万作豊穰 恒久美郷」この意味は、天の慈悲が全てのものに頂けますように。それを受けているものも慈悲で溢れるものでありたい。ましてや、自分もそう願いたい。山の草木も花も全てがより良く実りますように。人の営みと自然の関係がいつまでも続きますように、願いを込めました。慈久庵が認められるように、願掛け紫陽花も全国区になれるように思い、願っております。

自然や社会、人に対する強い想い、哲学を持ち、そこから向かう戦略・戦術を兼ね備えたものをイデオロギーと呼び、社会貢献を目標とした企業を社会性企業と呼ぶなら、イデオロギーを持った社会性企業が多く生まれる事が社会を良くしていくものと思います。

こうした企業を生み出せる最も近い所にいらっしゃるのがロータリークラブの活動をなさっている皆様ではなかるうかと思えます。皆様の御活躍をお祈り申し上げます。

また、この場をお借りし、「願掛け紫陽花」の開催にご協力頂いております常陸太田ロータリークラブの皆様にもお礼を申し上げます。ありがとうございました。